

科目名	歯科衛生士概論	担当教員	小松雅子	時間数	20	時期	1年	前期
学習目標	歯科保健医療の概要を理解するとともに、歯科衛生士の業務、歴史を学び歯科医療従事者として、また、歯科衛生士としての心構えを持つ。							
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論					授業形態	講義	
参考書	歯科衛生士になるためのオリエンテーション							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	歯科衛生士とは	歯科衛生士の法的性格、業務内容の要点 3年間で何を学ぶのか	
2	(1,2章) 歯科衛生学とは 歯科衛生士の歴史	歯科衛生と健康、活動の対象・領域、歴史	
3	(5章) 歯科衛生士法と歯科 衛生業務	歯科衛生士法、役割、歯科衛生士業務、安全管理	
4	臨床現場での歯科衛 生士の業務	歯科診療所での歯科衛生士業務 (宮下歯科医院 歯科医師、歯科衛生士)	
5	(3章、4章) 歯科衛生活動のための 理論、歯科衛生過程	予防の概念、科学的思考、歯科衛生過程とは	
6	(4章、6章) 歯科衛生活動のための 理論、歯科衛生過程	歯科衛生過程	
7	公衆衛生現場での歯 科衛生士の活動	公衆衛生活動、地域歯科保健での歯科衛生士業務 (上伊那口腔保健センター歯科衛生士)	
8	(7章、8章) 歯科衛生活動と組織 海外における歯科衛生 士	歯科衛生活動の現況、活動の場、歯科衛生士と組織 海外の歯科衛生士 臨床実習Ⅰの概要説明	
評価方法		試験	
実務経験		・歯科診療所で8年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	歯科臨床概論	担当教員	堀 晶彦	時間数	22	時期	1 年 前期
学習目標	歯科医療に従事するための基礎的な知識を身につける。						
教科書	歯科臨床概論 第2版 (医歯薬出版株式会社)					授業形態	教室における講義
参考書							

授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	歯科診療 歯科診療所	歯科診療を行うスタッフ、歯科診療所の紹介、歯科診療所における安全管理、感染症に対する基本的な知識、感染拡大防止対策、医療保険の仕組みと健康保険証	
2	ライフステージと歯科臨床 歯科診療で行うこと ～主な診療の流れ～	胎児期から老年期までの歯科の役割 歯科診療所における一般的な診療の流れ、歯科診療所における歯科診療と歯科衛生業務	
3	診査・検査・前処置 小児歯科・矯正歯科	バイタルサイン 画像検査 歯周組織検査 痛みのコントロール 小児歯科 先天異常への対応 予防処置 不正咬合	
4	口腔外科 歯科保存 歯周治療	口腔外科 抜歯 外傷 口腔粘膜疾患 歯科保存 歯内療法 歯周療法	
5	歯科補綴 障害者歯科・ 高齢者歯科	歯科補綴 クラウンブリッジ・有床義歯 障害者、高齢医者における歯科診療	
評価方法		出欠席状況、試験	
備 考			

科目名	歯・歯髄疾患学	担当教員	上島 昌幸 馬場 淳	時間数	38	時期	1学年 後期
学習目標	硬組織の疾患の抑制・修復についての知識体系の取得						
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 全国歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版					授業 形態	講義
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	歯科保存学総論 p2～21	I 編 歯の保存療法とは II 編 保存修復 1章 保存修復の概要(保存修復学とは)	
2	窩洞、保存修復治療 の概要 p21～37	II 編 保存修復 1章 保存修復の概要 (窩洞と保存修復、治療の概要、修復法の種類 等)	
3	保存修復の実際 p38～60	II 編 保存修復 2章 直接法修復 (コンポジットレジン修復、セメント修復)	
4	保存修復の実際 p61～82	II 編 保存修復 3章 間接法修復 (インレー・アンレー、ベニア修復、合着材・接着材)	
5	保存修復における歯 科衛生士の役割 まとめ p82～110	II 編 保存修復 4章 保存修復における歯科衛生士の役割 まとめ	
6	歯内療法	概論、歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の種類と病態	
7	〃	歯髄の保存療法、歯髄の除去療法、薬剤・器具について	
8	〃	感染根管処置(根管治療)、根管充填、外科的歯内療法	〃
9	〃	外傷歯の治療、安全対策(偶発症)、まとめ	〃
評価方法		試験・授業態度・出欠席状況	
備 考			

科目名	歯周治療学	担当教員	小口 理	時間数	34	時期	1年 後期
学習目標	歯科における歯周病(歯周疾患)という主要疾患について、疫学、原因、症状、診断および治療方法についての知識を習得し、これから行う歯周治療、保健指導や予防処置に活かす学習態度を併せて修得する。						
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周治療学 全国歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版					授業 形態	講 義
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	I編 歯周治療の基礎知識	1章 歯周治療とは 2章 正常な歯周組織の構造と機能	
2	I編 歯周治療の基礎知識	3章 歯周病の分類と原因	
3	II編 歯周治療の実際	1章 歯周治療の進め方	
4	II編 歯周治療の実際	2章 歯周病の検査	
5	II編 歯周治療の実際	3章 歯周基本治療①	
6	II編 歯周治療の実際	3章 歯周基本治療②	
7	II編 歯周治療の実際	4章 歯周外科治療①	
8	II編 歯周治療の実際	4章 歯周外科治療②	
9	II編 歯周治療の実際	5章 歯周治療としての口腔機能回復治療 6章 メンテナンス	
10	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 1 歯周治療の流れと歯科衛生業務 2 歯周病検査・診断時の補助	
11	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 3 リスクファクター などに対する指導	
12	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 4 スケーリング・ルートプレーニング①	
13	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 4 スケーリング・ルートプレーニング②	
14	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 5 SRP後の評価と処置、歯周外科手術の概要 6 口腔機能回復療法	
15	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 7 メンテナンス、SPT	
16	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務	1章 歯周治療における歯科衛生士の役割 8 診療室と器具・器材の管理	
評価方法			
備 考			

科目名	口腔外科学 ・歯科麻酔学	担当教員	小池 剛史	時間数	30	時期	1年 後期
学習目標	口腔外科で取り扱う疾患および口腔外科診療の実際について学ぶ。 歯科における麻酔、全身管理について学ぶ。						
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学					授業 形態	講義
参考書	看護のための最新医学講座(23)歯科口腔系疾患						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	口腔外科総論	口腔外科の概要、先天異常と発育異常	
2	口腔外科疾患 1	先天異常と発育異常、損傷および機能障害	
3	口腔外科疾患 2	口腔粘膜疾患、化膿性炎症	
4	口腔外科疾患 3	嚢胞性疾患、腫瘍および腫瘍類似疾患、 唾液腺疾患	
5	口腔外科疾患 4	神経疾患、診察と診断、口腔外科小手術など	
6	口腔外科診療の実際	止血・縫合処置、全身状態の評価と患者管理、 局所麻酔	
7	歯科麻酔学	精神鎮静法、全身麻酔、救急蘇生法	
評価方法		試験・授業態度・出欠席状況	
備考		参考図書:口の中がわかる ビジュアル歯科口腔外科読本 クインテッセンス出版株式会社 5,500円	

科目名	歯科補綴学	担当教員	長瀬 圭	時間数	34	時期	2 年 前期
学習目標	将来臨床に携わるようになったとき、自分で学習する手掛かりとなる基礎的知識を学ぶ						
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学					授業形態	講義を中心に静止画、DVDの動画も供覧します
参考書	授業中に配るプリント類を参考にして下さい						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	序論 (イントロダクション)	・歯を失うとどうなるか(歯の欠損に伴う障害と補綴治療の実際) ・補綴治療の概説・補綴装置の種類と構造・オーラルフレイル	
2	冠、橋義歯(Cr-Br)の基礎	・冠(Cr)や橋義歯(Br)の基礎・冠の種類・ポンティックの種類 ・橋義歯を構成するもの・歯肉圧排や支台築造について	
3	冠、橋義歯(Cr-Br)の臨床	・冠、橋義歯の基礎(続き)・審美的な補綴(特に前歯部の補綴) ・仮封冠(Tec)・冠、橋義歯の臨床・メンテナンスについて	
4	床義歯(PD・FD)の基礎	・床義歯(PD)の基礎・床義歯の種類 ・床義歯を構成するもの・クラスプ、バー、床、人工歯について	
5	床義歯(PD・FD)の臨床-1	・床義歯の基礎(続き)・床義歯の臨床・クラスプの為害作用 ・アタッチメント・ティッシュコンディショニングについて	
6	床義歯(PD・FD)の臨床-2	・メンテナンス・ゴシックアーチ(Go-A)・再装着と義歯修理 ・その他の補綴法(インプラント概説)	
7	補綴学 その他の話題-1	・嚥下運動について(誤飲を中心に概説)・検査方法について ・咬合について-1(咬合様式、咬合位)	
8	補綴学 その他の話題-2	・咬合について-2(顎運動) ・特殊な口腔内装置を用いる治療・顎関節症について	
評価方法		試験	
備考			

科目名	歯科矯正学	担当教員	名和 孝行	時間数	30	時期	2年 前期
学習目標	矯正歯科治療の目的と必要性を理解する。 矯正歯科治療における歯科衛生士の担う役割を理解する。						
教科書	歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正学					授業 形態	スライド 配布資料
参考書	年度別 歯科衛生士 国家試験問題集						

授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	歯科矯正学概論 成長・発育	矯正治療の目的とその必要性 不正咬合による生理的・心理的障害 頭蓋・顎顔面・歯・歯列の成長発育	
2	不正咬合 矯正診断	正常咬合・不正咬合 診断に必要な検査 症例分析	
3	歯科矯正治療と力 矯正装置	歯の移動様式と組織反応 矯正装置の種類	
4	歯科矯正治療の実際	歯科矯正治療の流れ 口腔の顎顔面の形成異常と変形 成人の歯科矯正治療	
5	保定 口腔習癖	自然的保定・器械的保定・永久保定 口腔習癖の種類と不正咬合への影響 筋機能療法 習癖除去装置	
6	矯正歯科用器具	主な矯正用器具・材料とその取り扱い方	
7	歯科矯正における 歯科衛生士の役割	予防処置と口腔衛生指導 矯正治療開始前の診査資料収集 口腔習癖の除去	
評価方法		試験 ・ 授業課題 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
備考		医療従事者になるという自覚を持って授業に臨む事。	

科目名	小児歯科学	担当教員	平出 吉範	時間数	30	時期	2年 前期
学習目標	発達段階における基礎から臨床全般の知識を身につける						
教科書	歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」(医歯薬出版)					授業 形態	講 義
参考書	クリニカルカリオロジー(医歯薬出版) 困った患者さんにどう活かす診療室の行動科学-親子へのアプローチ編-(クインテッセンス出版)、ほか						

#### 授業内容

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	概 論	小児歯科とは	
2	総 論 1	I 編 小児歯科診療の基礎知識 2章~5章	
3	総 論 2	I 編 小児歯科診療の基礎知識 6章~7章	
4	各 論 1	II 編 小児歯科診療 1章~2章	
5	各 論 2	II 編 小児歯科診療 3章 III編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 1章~2章	
6	各 論 3	III編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 3章~5章	
7	まとめ	質疑応答 その他	
評価方法		試験 (追試験、再試験あります)	
備 考			



科目名	障害者歯科学	担当教員	堀内 信之介	時間数	15	時期	2年 前期
学習目標	障害者の歯科的特徴、歯科治療、対応について理解する。						
教科書	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学					授業 形態	講義
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	障害者歯科 第1回	障害者歯科についての基礎知識	
2	障害者歯科 第2回	歯科医療で特別な支援が必要な疾患1	
3	障害者歯科 第3回	歯科医療で特別な支援が必要な疾患2	
4	障害者歯科 第4回	障害者の歯科医療と行動調整	
5	障害者歯科 第5回	健康支援と口腔衛生管理	
6	障害者歯科 第6回	障害者歯科におけるリスク評価、安全管理	
7	障害者歯科 第7回	地域における障害者歯科	
評価方法		試験・授業態度・出欠席状況をみます	
備 考			

科目名	高齢者歯科学	担当教員	小松 祐介	時間数	15	時期	2年 前期
学習目標	高齢者を歯科の分野から、直接及び間接的に支えるための様々な方策(社会的背景や精神的・身体的な特徴と影響、またそれに伴う疾病など)について理解し、その特徴や評価、チーム医療についての考え方や、全身状態だけでなく生活機能全体をみることのできる多角的な能力を養う。						
教科書	高齢者歯科学					授業 形態	講義
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	高齢者歯科学	序章・I編 高齢者を取りまく社会と環境	
2	高齢者歯科学	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	
3	高齢者歯科学	III編 高齢者の状態の把握 (高齢者の生活機能の評価、高齢者歯科と臨床検査)	
4	高齢者歯科学	III編 高齢者の状態の把握(高齢者の栄養状態、服用薬物)	
5	高齢者歯科学	IV編 口腔健康管理、前半のまとめ	
6	高齢者歯科学	V編 摂食嚥下リハビリテーション・嚥下訓練法	
7	高齢者歯科学	VI編 高齢者に関わる医療と介護、ICFの概要 まとめ	
評価方法		試験 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
備考			

科目名	歯科放射線学	担当教員	吉澤 光弘	時間数	30	時期	2 年 後期
学習目標	歯科衛生士としての放射線学の基礎を学び、実践において役立つ様トレーニングする						
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版(医歯薬出版)					授業 形態	講義+実習
参考書	X線写真クイズ						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	講義	放射線医学の概要と基礎、歯科用X線装置と器材、放射線防御	
2	講義	口内法撮影と口外法撮影	
3	講義・実習	フィルムの現像と管理、パノラマ撮影実習	
4	講義・実習	レントゲン写真の読影、パノラマトレース	
5	実習(前半)	10枚法実習(撮影)	
6	実習(後半)	10枚法実習(撮影)	
7	講義・実習	10枚法トレース、その他関連知識	
評価方法		試験	
備考			

科目名	う蝕予防処置	担当教員	田中 理沙	時間数	30	時期	1年 後期
学習目標	齲蝕の原因や予防法、齲蝕の進行阻止をはかる齲蝕予防処置についての知識や技術を身に付ける。						
教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』					授業形態	講義・演習 基礎実習 相互実習
参考書	プリント配布						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	概論、細菌観察	う蝕予防の意味、う蝕の成立ち、プラーク観察	
2	食品とう蝕	シヨ糖摂取とう蝕誘発性、代用甘味料	
3	う蝕活動性試験	う蝕の指標、う蝕のリスク判定、サリバテスト	
4	カリオグラム	サリバテスト分析・考察、カリオグラム	
5	フッ化物講義	フッ化物局所応用、安全性	
6	フッ化物塗布実習	フッ化物復習、洗口実習、味見、フロリアート実習	
7	フッ化物塗布相互実習	フッ化物局所応用相互実習	
8	フィッシャーシーラント実習	フィッシャーシーラントの目的、適応、模型実習	
9	フィッシャーシーラント相互実習	フィッシャーシーラント相互実習(ラバーダム防湿)	
評価方法		試験 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況 ・ その他(実技評価)	
実務経験		・ 歯科診療所で8年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	歯周予防処置 I	担当教員	中川 晶子	時間数	75	時期	1年	通年
学習目標	歯周予防処置についての専門知識と技術および態度を身に着ける。							
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)					授業 形態	講義・実習	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	歯科予防処置概要 (講義)	歯周予防処置概論・口腔の基礎知識	
2	口腔の基礎知識・ 歯周疾患(講義)	口腔の基礎知識・口腔内の付着物・沈着物	
3	手用スケーラーの 基礎知識(講義)	歯科器具基本セット・スケーラーの種類・用途・構造	
4	スケーラー操作 (講義・実習)	スケーラーの基本的操作法・術者の位置関係	
5	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(下顎前歯部 唇側)	
6	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(下顎前歯部 舌側)	
7	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(上顎前歯部 唇舌側)	
8	シャープニング (直線型)講義・実習	シャープニング法、使用器具等の講義 シクルスケーラー(直線型)のシャープニング実習	
9	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(左下臼歯部)	
10	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(右下臼歯部)	
11	シャープニング (屈曲型)講義・実習	シクルスケーラー(屈曲型)のシャープニング	
12	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(左上臼歯部)	
13	マネキン実習	シクルスケーラーの操作法(右上臼歯部)	
14	実技試験 オリエンテーション	前期総復習とシクルスケーラー実技試験のオリエンテーション(実技試験: 夏季休業明け)	
15	マネキン実習	マネキン実習復習(全顎)	
16	実技試験	シクルスケーラー実技試験、偶発事故防止と感染予防対策	
17	口腔内観察講義	口腔内観察法	
18	偶発事故防止 感染予防	軟組織観察実習と歯石除去相互実習のオリエンテーション	
19	相互実習	口腔内観察(軟組織・付着物・沈着物)	
20	相互実習	シクルスケーラー歯石除去実習(下顎前歯部)	
21	相互実習	シクルスケーラー歯石除去実習(上顎前歯部)	
22	相互実習	シクルスケーラー歯石除去実習(左下臼歯部)	
23	相互実習	シクルスケーラー歯石除去実習(右下臼歯部)	
24	相互実習	シクルスケーラー歯石除去実習(左上臼歯部)	
25	相互実習	シクルスケーラー歯石除去実習(右上臼歯部)	
評価方法		試験・授業態度・出欠席状況	
実務経験		・歯科診療所で14年間の臨床経験あり	
備 考			

科目名	歯周予防処置Ⅱ	担当教員	市瀬 美咲	時間数	40	時期	2年	前期
学習目標	1年次に身に付けた基本的技術を応用し、歯周疾患予防のためのインスツルメンテーションを身に付ける。							
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」					授業形態	講義・実習	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	プロービング エキスペロービング (講義・実習)	プロービング方法講義 エキスペロービング方法講義 マネキン実習・相互実習オリエンテーション	
2	プロービング (相互実習)	プロービング・付着歯肉幅・動揺度測定相互実習	
3	グレイシーキュレット (講義・実習)	グレイシーキュレットの構造、種類 マネキン実習(下顎前歯部)	
4	グレイシーキュレット操作 (実習)	マネキン実習(上顎前歯部)	
5	グレイシーキュレット操作 (実習)	マネキン実習(下顎左右臼歯部)	
6	グレイシーキュレット操作 (実習)	マネキン実習(上顎左右臼歯部)	
7	歯面研磨 (講義・実習)	歯面研磨用器具の種類と操作法、マネキン実習 相互実習オリエンテーション	
8	歯面研磨 (相互実習)	相互実習 歯面研磨	
9	グレイシーキュレット操作	グレイシーキュレット操作の復習	
10	シャープニング他	グレイシーキュレットのシャープニング 相互実習オリエンテーション	
11	スケーリング ルートプレーニング	グレイシーキュレット実技試験	
評価方法		試験・授業態度・出欠席状況	
実務経験		・歯科診療所で15年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	歯周予防処置Ⅲ	担当教員	宮下 苑子	時間数	70	時期	後期
学習目標	口腔疾患を予防し、健康な歯・口腔を維持するために必要な知識、技能、態度を身に付ける						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)、歯周治療学(医歯薬出版)					授業形態	講義・実習
参考書	歯科衛生過程HAND BOOK(クインテッセンス出版)						

授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	スケーリング ルートプレーニング	相互実習・上顎前歯部(グレーシー)	
2		相互実習・下顎左側臼歯部(グレーシー)	
3		相互実習・下顎右側臼歯部(グレーシー)	
4		相互実習・上顎左側臼歯部(グレーシー)	
5		相互実習・上顎右側臼歯部(グレーシー)	
6		メンテナンスの目的、歯面清掃の意義、操作法、マネキン実習	
7	メンテナンス・歯面清掃	相互実習・PMTC(下顎)	
8	歯面清掃	相互実習・PMTC(上顎)	
9		後輩実習について・口腔内写真撮影復習等	
10		後輩実習①—A(情報収集)	
11	実習オリエンテーション	後輩実習①—B(情報収集)	
12	歯科衛生過程実践	歯周病に関わる時に身に付けたい知識(講義・実習)	
13		歯科衛生アセスメント(情報処理)	
14		歯科衛生診断～歯科衛生計画立案	
15	超音波スケーラー等による歯石除去法	超音波スケーラー・エアスケーラーの取り扱い、マネキン実習	
16	歯科衛生過程実践	複式授業 歯科衛生アセスメント/相互実習 (超音波スケーラー、歯面清掃研磨器)	
17		複式授業 歯科衛生アセスメント/相互実習 (超音波スケーラー、歯面清掃研磨器)	
18		歯科衛生計画立案	
19		後輩実習②—B	
20	講義	後輩実習②—A	
21	歯科衛生過程実践	後輩実習③—A	
22		後輩実習③—B	
23		歯科衛生評価	
評価方法		実技、実習記録、ペーパー試験、出欠席	
実務経験		・歯科診療所で6年間の臨床経験あり	

科目名	口腔保健管理法	担当教員	宮下 苑子	時間数	90	時期	3年 前期
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔疾患を予防し健康を促進するための知識と技能を身につける。</li> <li>・実習を通し歯科衛生過程を実践する。</li> </ul>						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論、歯周病学(医歯薬出版)					授業形態	講義・実習
参考書	歯科衛生過程HAND BOOK(クインテッセンス出版)						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1		模擬患者実習準備	
2	特別講義	患者継続管理特別講義(宮下歯科医院:橋爪由美子DH)	
3		模擬患者実習継続B-③	
4		模擬患者実習まとめ・準備	
5		模擬患者実習継続A-③	
6	特別講義	カリエスリスクと対処法(さつき歯科医院・小口道生先生)	
7		模擬患者実習まとめ	
8	講義	X線写真から読み取る情報(横山恵子DH)	
9		模擬患者実習まとめ	
10	特別講義	インプラントケア等(さつき歯科医院:福井秀和先生)	
11	複式 マネキン実習	ルートプレーニングの確認	
12	講義	認定歯科衛生士の道(歯周病学会認定:横山恵子DH)	
13	複式 マネキン実習	ルートプレーニングの確認	
14		実習オリエンテーション(県職員、単発) シャープニング、模擬患者実習準備	
15		模擬患者実習継続B-④	
16		模擬患者実習まとめ・準備	
17		模擬患者実習継続A-④	
18		模擬患者実習 県職員B-①	
19		模擬患者実習 県職員A-①	
20		模擬患者実習まとめ	
21		模擬患者実習(県職員)実習準備	
22		模擬患者実習 県職員B-②	
23		模擬患者実習 県職員A-②	
24		模擬患者実習まとめ	
25		模擬患者実習(単発)実習準備	
26		模擬患者実習 単発A	
27		模擬患者実習 単発B	
評価方法		実習観察評価、実習記録、出欠席状況	
実務経験		・歯科診療所で6年間の臨床経験あり	



科目名	歯科保健指導基礎	担当教員	吉田 みか	時間数	30	時期	1年 前期
学習目標	口腔保健の意義を理解し、歯科保健指導を行うための基本的知識、技術を習得する。						
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」					授業 形態	講義・実習
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	総 論	1章 歯科保健指導論の概要 定義・法的位置づけ・内容 健康の概念・予防の概念 (第一次予防、第二次予防、第三次予防)	
2・3	歯科保健指導 各論	4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔清掃方法 ブラッシング (講義・実習)	
4・5	2-1実習 ①	2年生から歯科保健指導を受ける (1回目)	
6・7	歯科保健指導 各論	4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔清掃方法 その他の清掃方法(講義・実習)	
8・9	歯科保健指導 各論	4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔清掃方法 学納品の理解	
10・11	2-1実習 ②	2年生から歯科保健指導を受ける (2回目)	
12・13	歯科保健指導 各論	歯ブラシの硬さ比べ(実習)	
14・15	〃	パーフェクトブラッシング(実習)	
16・17	〃	特別講義「洗口剤について」 (weltec 歯科衛生士 三矢真輝子 先生)	
18・19	〃	特別講義「音波歯ブラシ『プリニア』」 (GC名古屋営業所 歯科衛生士 増田明日香 先生)	
評価方法		試験 ・ レポート ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
実務経験		・ 歯科診療所で13年間の臨床経験、自治体で3年間の歯科保健業務経験あり	
備 考			

科目名	歯科保健指導 I	担当教員	阿部 美由紀	時間数	60	時期	1年 後期
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージごとの口腔保健管理計画を理解し、生涯を通じた口腔保健管理が実践できる能力を習得する。</li> <li>・非感染性疾患について理解し、歯科保健指導が実践できる能力を習得する。</li> </ul>						
教科書	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』					授業形態	講義・演習 グループ学習
参考書	『歯と口の健康百科』医歯薬出版						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	歯科衛生アセスメントとしての情報収集	汚れの観察及び表現法 PCR、PHP、PII	
2	〃	汚れの観察及び表現法 OHI、OHI-S 演習	
3	〃	歯肉の炎症の観察及び表現法 PMA、PI、GI、CPI、GBカウント	
4	〃	口腔の観察 相互実習(PCR、PMA)	
5	〃	指数関連テスト	
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ガイダンス 〈青年期〉グループワーク	
7	〃	ライフステージにおける歯科衛生介入 〈青年期〉グループワーク・講義	
8	〃	〈妊産婦期〉グループワーク・講義	
9	〃	〈新生児期・乳幼児期・幼児期〉講義	
10	〃	〈幼児期〉グループワーク 〈学齢期〉グループワーク	
11	〃	〈学齢期〉グループワーク・講義	
12	〃	〈成人期〉グループワーク	
13	〃	〈成人期〉グループワーク・講義 〈老年期〉グループワーク	
14	〃	〈老年期〉グループワーク・講義	
15	歯科衛生介入としての歯科保健指導	〈生活習慣病〉講義・グループワーク	
16	〃	〈生活習慣病〉グループワーク 〈喫煙者〉講義・グループワーク	
17	〃	〈喫煙者〉グループワーク まとめ	
評価方法		試験 ・ レポート ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
実務経験		・歯科診療所で6年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	歯科保健指導Ⅱ	担当教員	阿部 美由紀	時間数	40	時期	2年 前期
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内写真撮影法を習得する。</li> <li>・口腔内状況に応じたブラッシング方法を考察する。</li> <li>・1年生に対する保健指導を実践する。</li> <li>・医療面接におけるカウンセリング技法を理解する。</li> </ul>						
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」					授業形態	講義・実習
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1・2	歯科保健指導実施のための基礎知識	行動変容に関連する理論	
3・4	口腔保健管理の実際	口腔機能管理・機能検査	
5・6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集	対象者からの情報収集 医療面接法	
7・8	ライフステージに対応した歯科衛生介入	2-1オリエンテーション 実習準備	
9・10	歯科保健指導実施のための基礎知識	【特別講義】歯ブラシの選択とその効果	
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入	2-1実習準備(模型読み取り)	
12・13	〃	2-1実習① 1年生への歯科保健指導実習	
14	〃	1回目の介入の振り返り 実際の指導内容の振り返り、疑問点、課題の抽出	
	〃	2-1実習準備(資料作成等)	
15・16	〃	2-1実習② 1年生への歯科保健指導実習	
17・18 19・20	歯科衛生アセスメントのための情報収集	口腔内の情報収集 口腔内写真撮影法〈講義・実習〉	
21・22	歯科衛生アセスメントのための情報収集	口腔内の情報収集 写真のデータ処理法	
23・24	口腔保健管理の実際	特別な配慮が必要な人の口腔内の状況と口腔保健管理 (高齢者の口腔ケア) ※実習オリ含む	
25・26	〃	口腔ケア相互実習①	
27・28	〃	口腔ケア相互実習②	
評価方法		試験・レポート・授業態度・出欠席状況	
実務経験		・歯科診療所で6年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	歯科保健指導Ⅲ	担当教員	阿部 美由紀 吉田 みか	時間数	45	時期	2年 後期
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園児に対する集団指導ができる。</li> <li>・歯科衛生過程における分析のための歯肉の読み取りができる。</li> <li>・歯科衛生過程の構成要素を理解し、事例に対し情報収集から評価までができる。</li> </ul>						
教科書	最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論』					授業 形態	講義・実習 グループワーク
参考書	『歯肉を診る歯肉を読む』 デンタルハイジーンMOOK						

### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1・2	対象別指導法	保育園実習準備	
		臨地Ⅱ 実習オリエンテーション	
3・4	対象別指導法	保育園実習準備	
5・6 7	〃	保育園実習準備	
8	〃	保育園実習準備	
		臨地Ⅱ 実習準備	
		<i>臨地実習Ⅱ 竜西保育園実習 集団保健指導</i>	
9・10 11	歯科衛生過程	分析のためのデータ 歯肉の読み取り	
12	〃	1章 歯科衛生過程の進め方〈講義〉 症例提示、説明	
		<i>臨地実習Ⅱ 竜南保育園実習 集団保健指導</i>	
13・14	〃	歯科衛生過程演習 【症例をもとにグループ学習】 歯科衛生アセスメント〈情報処理① 分類・整理〉	
15・16	〃	歯科衛生アセスメント〈情報処理② 解釈・分析〉	
17・18	〃	歯科衛生診断〈情報の統合・歯科衛生診断文の作成〉	
19・20	〃	歯科衛生診断〈優先順位づけ〉	
21・22	〃	歯科衛生計画 〈目標の設定方法・計画の選択・介入方法の設定〉	
		<i>後輩実習 第1回目</i>	
23・24	〃	歯科衛生評価〈評価の手順〉	
評価方法	試験 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況		
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科診療所で6年間の臨床経験あり</li> <li>・歯科診療所で13年間の臨床経験と自治体で3年間の歯科保健業務経験あり</li> </ul>		
備考			

科目名	歯科保健指導Ⅳ	担当教員	阿部 美由紀	時間数	45	時期	3年 前期
学習目標	地域歯科保健活動として、小学校および保育園における歯科保健指導を行う。 子どもたちが「健康の価値を認識し、自ら課題を見つけ、健康に関する知識を理解し、主体的に 考え、判断し、行動し、よりよく課題を解決する」ことを目的に、行動変容を促すライフスキル 教育を行う。						
教科書	最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論』					授業 形態	グループ学習 臨地実習Ⅱ
参考書	歯と口の健康百科						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1・2	対象別指導法	保育園指導オリエンテーション	
3・4	対象別指導法	保育園指導準備	
5・6	対象別指導法	保育園指導準備	
7	対象別指導法	保育園指導準備	
8・9	対象別指導法	保育園指導準備	
10・11	対象別指導法	保育園指導準備	
12	対象別指導法	保育園指導準備	
13・14 15・16	対象別指導法	保育園指導準備	
		竜西保育園保健指導実習	
		臨地実習Ⅱオリエンテーション1(赤穂南小)	
	臨地実習Ⅱ	赤穂南小学校 授業&歯科健診見学実習	
17・18	対象別指導法	小学校指導オリエンテーション・準備	
19・20	対象別指導法	小学校指導準備	
21 22・23	対象別指導法	小学校指導準備	
24・25	対象別指導法	小学校指導準備	
26・27 28・29	対象別指導法	小学校指導準備	
	臨地実習Ⅱ	赤穂南小学校 保健指導実習	
30	対象別指導法	小学校指導実習まとめ	
評価方法		出席状況、グループ学習時の態度、レポート、実習等により評価	
実務経験		・歯科診療所で6年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	栄養指導	担当教員	竹下 則子	時間数	30	時期	2年 前期
学習目標	・1学年の「栄養の基礎」をもとに、日常の食生活における課題や問題点がわかるようになり、 歯科指導における実践的栄養指導力を身につける。						
教科書	人体の構造と機能2 「栄養と代謝」IV編					授業 形態	講義と実習
参考書	食品成分表(女子栄養大学出版部)						

### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	食生活と健康	国民の健康と栄養の現状	
2	〃	国民栄養の課題と栄養指導の必要性 ・食生活改善の取り組み	
3	望ましい食生活	上記食生活改善の取り組み、健康日本21、食生活点検説明	
4	〃	食事バランスガイド、特別用途食品制度、食育基本法	
5	〃	食事計画、各自の食生活状況実態把握、課題と改善点	
6	ライフステージ別の栄養と調理	食生活指針、ライフステージ別の栄養と調理	・対象者の決定
7	〃	成長期における栄養と調理の特性	・献立作成
8	〃	成人期における栄養と調理の特性	・献立作成
9	〃	高齢期における栄養と調理の特性	・栄養価の算出
10	食べ物と健康	食品の成分と分類、食べ物の物性	・栄養価の算出
11	総まとめ	各自の献立作成完成⇒ライフステージ別Gw 実習献立の決定	
12	〃	ライフステージ別グループワーク	・発注量の算出/作業手順確
13	調理実習・試食	作成献立の実習と試食(エプロン・三角巾・空弁当持参)	
14	同上	同上 (評価)	
評価方法		試験・レポート・授業態度・出欠席状況 その他 ( <u>実習・演習態度</u> )	
備考			

科目名	歯科診療補助 I	担当教員	田中 理沙	時間数	50	時期	1年 前期
学習目標	医療現場の感染予防対策を習得する。 歯科臨床の場での共同動作を習得する。 歯科医療で使用されている器械類、材料の知識、取り扱いができる。						
教科書	歯科診療補助論、歯科材料の知識と取り扱い、歯科器械の知識と取り扱い					授業 形態	講義・演習 基礎実習 相互実習
参考書	感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄、ポケットマニュアル						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	歯科診療補助総論 感染予防対策①	診療補助オリエンテーション 歯科衛生士業務の中の診療補助の位置づけ、法律、業務範囲 診療室管理、医療現場での清潔・不潔	
2	3-1実習①	3年生による全顎印象採得	
3	3-1実習②	3年生によるスタディモデルの説明	
4	感染予防対策②	院内感染、注意すべき感染症 滅菌・消毒の種類と方法、感染防止策、標準予防策	
5	感染予防対策③	身だしなみ、手洗い実習	
6	歯科器械の取り扱い 共同動作①	歯科用ユニットの知識、ユニットの取り扱い 患者誘導、ポジショニング、ライティング	
7	感染予防対策④	各種滅菌法	
8	歯科材料① 綿球・ガーゼ作成	ガーゼの取り扱い(小折ガーゼ) 綿球作成 (カット綿、ロールワッテ、洗浄用綿球、塗布用綿球)	
9	共同動作② 講義・マネキン実習	バキュームテクニック、口腔内洗浄 器具の受け渡し	
10		相互実習オリエンテーション	
11	共同動作③ 相互実習	バキュームテクニック、口腔内洗浄 器具の受け渡し	
12	硬組織診査① 講義・演習	口腔診査とは、歯科衛生士が行う診査、診査項目 記載の略号	
13	硬組織診査② 相互実習	硬組織診査	
14	ラバーダム防湿① 講義・マネキン実習	ラバーダム防湿	
15	ラバーダム防湿② 相互実習	ラバーダム防湿	
評価方法		試験 ・ レポート ・ 授業態度 ・ 出欠席状況 ・ 成果物	
実務経験		・ 歯科診療所で5年間の臨床経験あり	
備考			

科目名	歯科診療補助Ⅱ	担当教員	西村 美紗 田中 理沙	時間数	70	時期	2年 通年
学習目標	臨床の現場において歯科材料及び歯科器械の取り扱いができるように、基本的な知識と技術を身に付ける						
教科書	歯科診療補助論 歯科材料、歯科機器					授業 形態	講義・ 演習
参考書							

### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	歯科材料取り扱い アルジネート印象材	印象材の種類・特徴 アルジネート印象材の取り扱い	
2	歯科材料取り扱い 石膏模型材	石膏の種類・用途	
3	歯科材料取り扱い 合着材・接着剤	合着材・接着材の種類・特徴 練和実習	
4	歯科診療の流れ①	歯科診療の流れ(根管治療)、フローチ綿花	
5	歯科材料取り扱い 寒天印象材	寒天印象材の取り扱い 模型実習(寒天・アルジネート連合印象) その他の印象材(モデリング)	
6	歯科材料取り扱い ゴム質印象材	ゴム質印象材の取扱い、模型実習 ワックス(ユーティリティワックス、バイトワックス) 石膏注入	
7	歯科材料取り扱い 仮封材	仮封材の種類・特徴 練和実習	
8	歯科材料取り扱い 修復材	修復材の種類、隔壁調整(マトリックスバンド) コンポジットレジン充填・研磨	
9	歯科診療の流れ② 器材の名称用途	歯科診療の流れ 器材の名称・用途	
10	歯科診療の流れ③ 器材の名称用途	歯科診療の流れ 器材の名称・用途	
11	スタディモデル①	スタディモデルの意義、種類、作成方法講義、 マネキン実習	
12	スタディモデル②	相互実習(全顎印象採得)・石膏注入 模型の作製、トリマー・石膏鉗子の取扱い、 スタディモデルの台付け	
13	スタディモデル③	スタディモデルの読み取り	
14	精密印象採得①	歯肉圧排の目的、模型実習	
15	精密印象採得②	相互実習(ゴム質印象材)、超硬質石膏の注入	
16	精密印象採得③	相互実習(寒天アルジネート連合印象)、硬質石膏注入	
評価方法	試験 ・ 出欠席状況 ・ 成果物		
備 考	・病院歯科で7年間の臨床経験あり ・歯科診療所で5年間の臨床経験あり		



科目名	歯科診療補助Ⅲ	担当教員	市瀬 美咲	時間数	30	時期	3年 前期
学習目標	臨床における高度歯科医療に対応するために、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能を理解する。						
教科書	歯科診療補助、歯科材料、歯科器械					授業形態	講義・演習 基礎実習
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	3-1実習オリ	(3-1実習オリエンテーション)、印象採得復習、ホワイトニング用模型作成	
2	医療安全管理・感染予防対策	医療安全、感染予防・ユニットのラッピング	
3	3-1実習①	1年生の印象採得、スタディモデル作成	
4	3-1実習②	1年生のスタディモデルの説明準備	
5	暫間被覆冠①	暫間被覆冠とは、既成冠(アルミキャップ、レジン既成冠)での作成実習	
6	暫間被覆冠②	印象利用の作成法、ダイレクト作成法実習	
7	3-1実習③	スタディモデルを用い歯牙解剖の説明	
8	受付業務、 (実習準備の時間) 器具の名称・用途	受付業務、口腔外科における歯科器具の取扱い、TEK仮着(模型実習)	
9	インプラント	インプラントの臨床	
10	周術期の口腔ケア	がん治療における歯科衛生士の役割、病院での取り組み	
11	ホワイトニング	ホワイトニング特別講義	
評価方法		試験 ・ TEK成果物 ・ 出欠席状況	
学生へのメッセージ		・歯科診療所で15年間の臨床経験あり	
備考		臨床実習前の知識・技術として、1年次から学んでいるフォーハンドテクニックや歯科材料、器具の取扱い等各自復習が必要です。	

科目名	歯科材料学	担当教員	古畑 喜一郎	時間数	22	時期	1年 後期
学習目標	歯科材料の性質や特長、正しい取り扱い方法を習得する。						
教科書	歯科材料					授業 形態	講義
参考書							

授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	歯科材料の基礎知識	歯科材料の基本的性質 歯科衛生にかかわる材料	
2	歯科材料の種類と特性	印象材、模型用材料の種類と用途	
3	歯科材料の種類と特性	合着材・接着材・成形修復材の種類と用途	
4	歯科材料の種類と特性	仮封材・暫間修復材・仮着用セメント・ワックス・金属の種類と用途	
5	歯科材料の種類と特性	セラミックス・その他の歯科材料の種類と用途	
評価方法		試験・レポート・授業態度・出欠席状況・その他	
備考			

科目名	臨床検査	担当教員	町田 幸一	時間数	18	時期	1年 後期
学習目標	臨床検査の知識を基に口腔内の病態を理解し、日常業務での感染対策の対応を理解すること						
教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査(医師薬出版)					授業形態	講義
参考書	歯科衛生士国家試験出題基準 歯科衛生士国家試験問題集						

授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	1章 臨床検査とは	① 臨床検査の倫理と安全 ② 臨床検査はなぜ必要か ③ どんな検査があるのか ④ 検査成績の読み方	
2	2章 生体検査 (生理機能検査)	① 体温検査 ② 脈拍検査 ③ 血圧検査 ④ 心機能検査 ⑤ 肺機能検査 ⑥ 筋電図検査 ⑦ 脳波検査 ⑧ 血中酸素濃度検査	
3	3章 検体検査	① 血液を用いる検査	
4	3章 検体検査	① 血液を用いる検査	
5	3章 検体検査	② 感染症(細菌)検査 ③ 病理検査	
	4章 口腔領域の臨床検査	① 口臭検査 ② 味覚検査 ③ 歯科金属アレルギーの検査 ④ 舌の検査 ⑤ 口腔粘膜の検査 ⑥ 唾液検査 ⑦ 歯周組織の検査 ⑧ 歯の検査 ⑨ 根管内細菌培養検査	
	5章 摂食・嚥下障害の検査	① 摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト ② 摂食・嚥下障害の検査	
6	付章 主な疾患・病態別 検査値のとらえ方		
評価方法		試験 ・レポート ・ 授業態度 ・ 出欠席状況 ・ その他 ( )	
備考			

科目名	看護学	担当教員	那須 淳子 伊藤 郁恵	時間数	18	時期	2 年 後 期 3 年 前 期
学習目標	看護について、また、看護の対象となる人間について学ぶ。加えて、医療チームの一員である看護師の役割を理解するとともに、患者の日常生活を援助するための基本的な知識と技術を学ぶ。						
教科書	全国私立歯科大学・医学部付属病院看護部長会編：歯科衛生士のための看護学大意 第4版。医歯薬出版、					授業形態	講義・演習
参考書	講義・演習時にその都度提示する						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	看護とは何か	多職種で構成される医療チームについて知る。 看護の定義、看護の役割と看護が行われる場について知る。 健康・ニード・セルフケアとは何か知る。 病床環境と患者をとりまく環境を調整するための援助の視点を 知る。(GW・講義)	
2	看護技術① バイタルサイン測定	環境についてグループ討議する。 バイタルサイン(脈拍、体温、呼吸、血圧、意識レベル)を学び、 バイタルサインの測定方法を知る。 「観察」について考える。 対象者へのコミュニケーションについて考え実践する。 (GW・講義・演習)	
3	看護技術② 安楽な体位と体位変換	様々な体位を学び、体位変換の必要性やその援助方法を知 る。 車椅子の操作方法と、車椅子への移乗方法を知る。 対象者観察・コミュニケーションについて考え実践する。 危険予知トレーニングを行い安全な援助について考える。 (講義・演習・GW)	
4	看護技術③ 食事・排泄・清潔の援 助	食事の意義について考え、食事援助の留意点について知る。 排泄援助、清潔援助の必要性と援助方法を知る。(講義・GW)	
評価方法		出席状況、授業態度、レポート、筆記試験	
実務経験		・病院で8年間の臨床経験あり	
備考		講義内容は、状況に応じて順序が変更になる可能性あり	

科目名	摂食嚥下リハビリ法	担当教員	酒井 洋徳 上野 洋子	時間数	30	時期	3 年 前 期
学習目標	高齢者歯科医療、在宅訪問歯科医療における摂食・嚥下リハビリテーションの役割を理解し、歯科衛生士の役割について理解する。						
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版					授業 形態	
参考書	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学						

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	リハビリテーションの概要	1.歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション 2.リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション 3.摂食嚥下障害者への口腔管理と制度の理解	
2	摂食嚥下の評価と対応	1.咬合および咀嚼機能の管理と評価 2.成人期・老年期の疾患に伴い多くみられる摂食嚥下障害 3.歯科衛生士が行うスクリーニングテストと観察評価	
3	口腔衛生管理	1.摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	
4	摂食嚥下訓練	1.摂食嚥下障害に対する訓練計画立案 2.摂食嚥下障害に対する食事指導 3.各病態に対する訓練法とその選択	
5	歯科衛生士による摂食・嚥下障害への取り組み	発達障害、中途障害への取り組み。居宅、高齢者介護施設、病院などでの取り組み。 介護予防としての取り組みなどについて説明する。	
6	口腔ケア	ICFの視点にたった目標指向的アプローチによる口腔ケアに関して、アセスメント、ケアプラン、口腔ケアの実施、評価、連携・協働などを講義と実習で学ぶ。	
7	摂食・嚥下機能訓練	間接的訓練、直接的訓練について、訓練の目的、実施方法、評価などに関して講義と実習で学ぶ。	
評価方法		試験、出席状況、授業態度を総合的に評価します。	
実務経験		・歯科診療所と病院で3年間の臨床経験、自治体で9年間の歯科保健業務経験、介護福祉施設で17年間の介護経験あり	
備 考			